

京都府豊かな森を育てる府民税 事業評価シート

府民税 使途分野	I 森林の整備及び保全															
事業名	I-1-①②③ 森林防災機能強化事業															
事業 概要	1 目的 近年の多発する豪雨や台風災害に備え、流木被害や倒木被害からの防災対策を強化するため、風倒木被害からの復旧、流木の原因となる危険木・堆積土砂の除去だけでなく、今後の豪雨等による二次災害の未然防止を図り、市町村からの要望を受けて、住民と一体となって災害に強い森づくりを推進する。 2 内容 (1) 地域とつくる安心・安全な森整備事業 地域住民による森林整備活動を支援し、安心・安全の森を未来へ引き継ぐ。 (2) 流木等流出防止対策事業 流木の原因となる危険木の除去し、森林機能の向上を図る。 (3) 山地災害防止対策事業 人家裏等の森林において、風倒木や倒木の恐れのある危険木の除去、植栽し、森林機能の向上を図る。 (4) 京の木づかい施設整備事業 木製構造物の設置等を行うとともに、地域住民が親しめる森林管理環境を整備し、府内産木材の利用拡大と持続的な森林管理による災害予防対策の強化を図る。 3 事業実績（R6年度） <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業区分</th><th>事業費</th><th>主な内容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1) 地域とつくる安心・安全な森整備事業</td><td>13,902 千円</td><td>・ 地域住民による危険木の撤去 21 箇所(12 箇所)</td></tr> <tr> <td>(2) 流木等流出防止対策事業</td><td>41,151 千円</td><td>・ 流木の原因となる危険木の撤去、簡易構造物の設置 8 箇所(8 箇所)</td></tr> <tr> <td>(3) 山地災害防止対策事業</td><td>183,000 千円</td><td>・ 風倒木等の危険木の撤去、植栽工、簡易構造物の設置 10 箇所(6 箇所)</td></tr> <tr> <td>(4) 京の木づかい施設整備事業</td><td>56,926 千円</td><td>・ 森林管理環境の整備 14 箇所 ・ 木製構造物の設置 2 箇所(2 箇所)</td></tr> </tbody> </table> ※ () は山地災害危険地区の整備箇所の内数	事業区分	事業費	主な内容	(1) 地域とつくる安心・安全な森整備事業	13,902 千円	・ 地域住民による危険木の撤去 21 箇所(12 箇所)	(2) 流木等流出防止対策事業	41,151 千円	・ 流木の原因となる危険木の撤去、簡易構造物の設置 8 箇所(8 箇所)	(3) 山地災害防止対策事業	183,000 千円	・ 風倒木等の危険木の撤去、植栽工、簡易構造物の設置 10 箇所(6 箇所)	(4) 京の木づかい施設整備事業	56,926 千円	・ 森林管理環境の整備 14 箇所 ・ 木製構造物の設置 2 箇所(2 箇所)
事業区分	事業費	主な内容														
(1) 地域とつくる安心・安全な森整備事業	13,902 千円	・ 地域住民による危険木の撤去 21 箇所(12 箇所)														
(2) 流木等流出防止対策事業	41,151 千円	・ 流木の原因となる危険木の撤去、簡易構造物の設置 8 箇所(8 箇所)														
(3) 山地災害防止対策事業	183,000 千円	・ 風倒木等の危険木の撤去、植栽工、簡易構造物の設置 10 箇所(6 箇所)														
(4) 京の木づかい施設整備事業	56,926 千円	・ 森林管理環境の整備 14 箇所 ・ 木製構造物の設置 2 箇所(2 箇所)														

(1) 地域とつくる安心・安全な森整備事業：地元主体の危険木の除去（与謝野町）



(2) 流木等流出防止対策事業：流木の原因となる危険木の除去（京丹後市）



(3) 山地災害防止対策事業：山腹斜面の危険木の除去（京都市）



(4) 京の木づかい施設整備事業：
森林管理環境の整備（京丹波町）



木製構造物の設置（福知山市）



指標	R 6 年度 実績値／目標値（達成率）	R 6 年度までの実績値 ／ 5 年間の目標値
I-1-① 山地災害危険地区の 整備	28 箇所／20 箇所（140%）	146 箇所／100 箇所
I-1-② 溪流における災害の 未然防止	31 箇所／20 箇所（155%） ※内、山地災害危険地区（22 箇所）	160 箇所／100 箇所 ※内、山地災害危険地区（130 箇所）
I-1-③ 災害防止のための 森林整備	185ha／200ha（93%） ※(1)～(4)のうち森林整備により 効果が発揮される流域面積	845ha／1000ha ※(1)～(4)のうち森林整備により 効果が発揮される流域面積

1 上記達成率となった理由

I-1-① 山地災害危険地区の整備数

I-1-② 溪流における災害の未然防止

- ・近年の豪雨災害等によって保安林内の溪流に異常堆積している流木・土砂が増加していることや、地域住民の災害防止意識の向上により、危険木対策をきめ細やかに対応した結果、目標値を大きく上回ることとなった。

I-1-③ 災害防止のための森林整備

- ・近年の台風等により風倒木等が発生し、保安林機能が低下した流域が散見されているため、地域住民や市町村の要望を基に危険木対策や植栽工等の森林整備により保安林機能の回復を図った結果、施工面積が小さい箇所が多かったことから目標に対し約 9 割の実績となった。

2 地域住民や実施主体の意見

- ・(1)地域とつくる安心・安全な森整備事業及び(2)流木等流出防止対策事業については、地域からの提案を基に事前協議を行い事業内容を決定しているため、地域住民の意向をくみ取り、きめ細やかな対応をさせていただいている。
- ・(3)山地災害防止対策事業については、人家裏等の森林での危険木対策事業であり、事業の成果がより生活に密着しており、地域住民の安心・安全を確保するための対応をさせていただいている。

3 今後の事業の方向性

- ・近年の災害では、山地災害危険地区未指定箇所や危険度ランクが低い箇所においても災害が発生していることから、航空レーザ測量で得られた精緻な地形情報を用いて危険度の高い箇所を選定の上、整備を進めていく。
- ・府内の山地災害危険地区（合計 5,000 箇所）の中で、保全対象や荒廃状況等を鑑みて優先度の高い箇所が約 700 箇所存在している。そのうち、国庫事業も含めて約 350 箇所の整備が完了しているが、依然として未整備の箇所が残っているため、引き続き、整備を進めていく必要がある。
- ・(1)地域とつくる安心・安全な森整備事業については、保安林内の流木対策を補助対象として実施してきたが、地域住民の提案による公共性の高い施設や道路周辺等における危険木対策について、保安林に限らず全ての森林を対象に拡充して実施していく。

有識者 会議の 意見	・ 地域ニーズに沿って実施している危険木の除去などの防災対策は、流木災害の未然防止に繋がる効果的な取組として評価できる ・ 近年の異常気象を踏まえると、森林の防災機能を高めていくのは効果的である ・ 里山林整備と同様に、集落近くまで整備されており、結果としてバッファゾーンとなり、獣害対策となっている点も評価したい ・ 局地的な豪雨が頻発する中、森林が持つ多面的機能を向上させるため、継続的な森林の整備及び保全を進めていくことが必要である ・ 災害対応は不確実性が高いため、目標値に囚われず、柔軟に対応していただきたい
---------------------------	---

京都府豊かな森を育てる府民税 事業評価シート

府民税 使途分野	I 森林の整備及び保全 III 森林の重要性の啓発										
事業名	I-2-①②③④⑤ 豊かな森づくり総合対策事業										
事業概要	1 目的 ・ 再造林等への支援及び少花粉スギ・ヒノキの種子生産体制を整備することで、森林資源の循環利用と花粉症対策苗木の安定供給を推進する。 ・ 京都モデルフォレスト運動促進の一環として、放置され荒廃した里山の基盤整備、森林学習活動の指導者育成や里山保全活動を支援する。 ・ 地域文化と深く結びついて大切に守られてきた森林や樹木の保全活動を支援し、京の森林文化を将来の府民に伝える取組を推進する。 ・ 地域資源を活用した様々な特用林産物の生産振興により、農山村における地域経済に寄与するとともに就労の場の確保を促進する。 2 内容 (1) 次世代につなぐ森づくり事業 森林資源の循環利用による、豊かな森づくりを進めるため、①再造林を促進する植栽、獣害対策及び下刈りへの支援、②花粉症対策苗木の安定供給を図る採種園の整備を実施した。 (2) ふるさとの里山林保全活動推進事業 京都モデルフォレスト運動への府民参加の裾野を拡大し、府民ぐるみの森林づくりを更に推進するため、地域住民が森林保全活動を行うための里山林整備、「森林保全研修」 ※修了者による里山学習活動を支援した。 ※林業大学校による森林ボランティア等を対象にした林業体験等の現地研修 (3) 京の森林文化を守り育てる支援事業 社寺の森や文化伝説の森、伝統行事・伝統産業を支えてきた森、地域のシンボルとなっている名木古木など、地域住民や保全団体が行う森林や樹木の保全活動を支援した。 (4) 豊かな森の恵み創造事業 特用林産物の生産振興を通して、森林の公益的機能の維持増進を図るため、①生産にかかる基盤整備及び施設整備への支援、②漆園の造成を実施した。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業区分</th><th>事業費</th><th>主な内容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1) 次世代につなぐ森づくり事業</td><td>26,485 千円</td><td>①再造林を促進するための植栽支援： 22.43ha、獣害防護柵：2,944m、 下刈り：50.72ha ②採種園（花粉症対策品種）の整備： 0.96ha</td></tr> <tr> <td>(2) ふるさとの里山林保全活動推進事業</td><td>25,120 千円</td><td>①里山林整備 37箇所 ②里山林保全活動支援 10団体 ③里山学習支援 3団体</td></tr> </tbody> </table>		事業区分	事業費	主な内容	(1) 次世代につなぐ森づくり事業	26,485 千円	①再造林を促進するための植栽支援： 22.43ha、獣害防護柵：2,944m、 下刈り：50.72ha ②採種園（花粉症対策品種）の整備： 0.96ha	(2) ふるさとの里山林保全活動推進事業	25,120 千円	①里山林整備 37箇所 ②里山林保全活動支援 10団体 ③里山学習支援 3団体
事業区分	事業費	主な内容									
(1) 次世代につなぐ森づくり事業	26,485 千円	①再造林を促進するための植栽支援： 22.43ha、獣害防護柵：2,944m、 下刈り：50.72ha ②採種園（花粉症対策品種）の整備： 0.96ha									
(2) ふるさとの里山林保全活動推進事業	25,120 千円	①里山林整備 37箇所 ②里山林保全活動支援 10団体 ③里山学習支援 3団体									

(3) 京の森林文化を守り育てる支援事業	28,000 千円	①社寺の森の保全 19 事業 ②伝統行事の森の保全 1 事業 ③名木古木の蘇生対策 12 事業 計 32 事業
(4) 豊かな森の恵み創造事業	4,564 千円	・漆園造成 1 箇所 ・生産基盤整備 4 箇所 ・生産施設整備 3 箇所

(1) 次世代につなぐ森づくり事業



植栽補助 (福知山市)



採種園の整備 (少花粉ヒノキ)

(2) ふるさとの里山林保全活動推進事業



里山学習支援 (京都市)



里山林整備 (綾部市)
左：整備前、右：整備後

(3) 京の森林文化を守り育てる支援事業



道祖神社の森整備 (南丹市美山町)
左：整備前、右：整備後

(4) 豊かな森の恵み創造事業



漆パイロット園地整備 (福知山市)

自己
評価

指標	R 6 年度 実績値／目標値 (達成率)	R 6 年度までの実績値 ／ 5 年間の目標値
I -2-① 再造林への補助実績 (※ 1)	70ha／103ha (68%) (内、府民税実績 22ha)	232ha／445ha
I -2-② 花粉症対策苗木の生産量(※ 2)	8.5 万本／8.5 万本 (100%)	16.6 万本／31.5 万本
I -2-③ 里山林の整備	47 箇所／60 箇所 (78%)	216 箇所／300 箇所
I -2-⑤ 地域文化と関わる社 寺の森等の整備	32 箇所／30 箇所 (107%)	154 箇所／150 箇所

※ 1 再造林率は段階的に引き上げることとしており、年度ごとの目標値は次のとおりとしている
R3 : 61ha、R4 : 74ha、R5 : 88ha、R6 : 103ha、R7 : 119ha 5 年間の目標の総量 : 445ha

※ 2 花粉症対策苗木の生産量の目標は、国の花粉発生源対策推進方針に定める、令和 14 年度における花粉症対策苗木の割合 7 割を達成するために必要な値としている。

※ () は R5 実績

指標	R 6 年度実績
I -2-④ 里山学習の実施	3 箇所 (3 箇所)

1 上記達成率となった理由

I -2-① 再造林への補助実績

- ・補助事業の PR、再造林の必要性についての理解が進んだことにより昨年度より補助実績は増加したが、再造林時の鳥獣害防護柵の設置や維持管理などに費用が嵩むため、森林所有者の再造林に対する姿勢は消極的であること、また、再造林を行う林業事業体においては、主伐候補地での森林所有者の土地境界の確定に時間を要したことから、主伐面積が増えず、再造林が目標を下回る結果となった。

I -2-② 花粉症対策苗木の生産量

- ・令和 2 年度から、花粉症対策苗木の生産に必要な種子を苗木生産者に配布したところであり、令和 4 年度から花粉症対策苗木の生産が開始された。(種子から苗木生産

まで2年かかる)

- ・令和6年度においては、令和4年度の種子生産量が概ね計画通りであったため、花粉症対策苗木の生産量が目標を達成した。

I-2-③ 里山林の整備

- ・各地域の荒廃した森林で、竹林整備等継続した里山林整備が行われているが、高齢化等の影響により、里山林保全活動に取り組む団体の人数が減少しており、目標値を下回る結果となった。

I-2-④ 里山学習の実施

- ・依然として一定数の事業要望があり、里山学習の着実な実施に繋がっている。

I-2-⑤ 地域文化と関わる社寺の森等の整備

- ・地域活動により社寺の森等を整備するニーズの高まりや事業のPRを併せて行った結果、目標値を上回ることができた。

2 地域住民や実施主体の意見

(1) 次世代につなぐ森づくり事業

- ・再造林後の獣害対策は必須であり、防護柵は設置して終わりではなく、破損や緩みがないかなどの点検・補修をしないとシカ等により食害を受けてしまう。
- ・国の補助を受けることができる主伐・再造林一貫作業は、花粉症対策苗木による再造林が必須であり、また、花粉症対策苗木による再造林を望む森林所有者もいるので、花粉症対策苗木の生産は必要である。

(2) ふるさとの里山林保全活動推進事業

- ・本事業を通して整備活動をしていくための基盤整備が進み、これまで放置されていた荒廃森林の整備が進んできたため、地域住民の森林への関心が高まっていると感じている。
- ・本事業により、引き続き里山林の整備を実施していきたい。

(3) 京の森林文化を守り育てる支援事業（事業アンケート結果）

- ・実施団体が森林等の保全対策について、当初目標を達成し、景観が良くなり、安心して森林に入れるようになったことから、地域活動が活発になるなど波及効果があったと回答した。

(4) 豊かな森の恵み創造事業

- ・漆園造成については、園地造成に必要な手法の実証を行うことで、生産拡大につながる知見を収集でき、今後も継続が必要である。

3 今後の事業の方向性

(1) 次世代につなぐ森づくり事業

- ・令和6年度から、鳥獣害防護柵の修繕について支援の対象としたところ。
- ・林業事業体の主伐・再造林に対する意欲を向上させるため、再造林経費の削減に資する一貫作業と低密度植栽の普及を進めるとともに、他の財源による再造林を要件とした主伐への支援と本事業を併せた主伐・再造林の一体的な支援について、PRすることで、主伐・再造林のさらなる促進を図る。
- ・自己の所有山林の境界がわからない所有者が増加していくことが想定される中、主伐・再造林を行う森林境界の確定が進むよう、航空レーザ測量の解析結果等の高精度な森林情報を共有することができる森林クラウドシステムの構築・普及に取り組む。
- ・主伐・再造林のさらなる促進と併せて、花粉発生源対策を進めていくため、生産者が